

## 平成30年第13回大川市教育委員会（定例会）会議録

平成30年9月26日、大川市役所第2委員会室において、平成30年第13回教育委員会（定例会）を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

### 1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分  
閉会 16時10分

### 2. 出席委員の氏名

教育長 記伊 哲也  
委員 谷川 朋昭  
委員 一ノ瀬直子  
委員 蔵本美保子  
委員 恵崎 浩則

### 3. 欠席委員

なし

### 4. 事務局等の出席者

学校教育課長	石橋 正隆
学校教育課主幹	古賀美保理
生涯学習課長	岡 辰磨
学校教育課長補佐	本田 龍雄
生涯学習課長補佐	岡 美詠子
記録者・学校教育課総務係	永島 潤一

### 5. 傍聴者

なし

### 6. 付議案件

審議事項

(1) 第27号 平成30年度大川市教育委員会感謝状贈呈候補者について

報告事項

(1) 臨時職員等の任用について

(2) 平成30年度福岡県学力調査結果について

### 7. 教育長の挨拶の要旨

(1) 9月議会の一般質問について

・危険なブロック塀の対策について

県は半径500m以内の調査、市町村においてその他の箇所を調査している。結果のとりまとめは10月以降となる見込みである。

・第6次長期総合計画（マスタープラン）について

教育委員会の関係では、「大川市学校施設長寿命計画」について質問があった。教育委員会内でもお知らせしていたが、当面の長寿命化対策の対象を田口小学校・木室小学校

としていたが、もう一度見直す必要がある。計画の内容としては、電気や機械等の更新周期を考慮した状態で5年ごとに見直すという答弁をした。どこの学校から長寿命化対策を実施するかは決定していない。

・熱中症対策について

来年の夏を見据えた質問である。中学校は空調設備がないため、独自の対策を説明している。気化式冷風機の導入についても質問があったが、音量が大きく授業への影響が懸念されることや、湿度が高くなるため黒カビの発生の原因となることから、困難との答弁をしている。

・ヘルプカードについて

福岡県が4月に作成した「自分は困っています」と公共機関などで意思表示するカードである。「是非子どもたちへ周知を」ということで、早速校長会において紹介をした。

・コミュニティスクールについて

昨年までで三又中学校区におけるコミュニティスクールのモデル校事業を終えたが、今後の展望、進捗状況等の質問であった。基本的には小中学校へ波及していく、年度内には概ね数校の申請が挙がってくると聞いている。中学校については、再編完了後の申請と答弁している。

・学校再編について

小小連携・小中連携・事前交流についての質問があり、小学校は4校交流レクリエーション、中学校は2校ごとで合同による野外活動を予定している。現在4校とも野外活動で波戸岬へ行っており、来年の1年生から合同で行う予定である。

(2) 文部科学省通達文より

・全国的な学校施設への空調機導入が4割という状況の中、今夏は児童が熱中症で死亡する事案が発生した。これを受けた暑さ対策の推進で、物理的に不可能であれば夏休みの延長も検討するよう通達があった。本市では、中学校の普通教室には空調機を導入していないため、暑さ指数計測器を活用しながら対応していく予定である。以前は、「夏休みを短縮してでも授業数を確保し、学力の向上に努めるように」との通達であったが、「夏休みの延長を推奨」する事態となっている。

・「おき勉」について、昨今は副教材の増加に加えて教科書が厚くなってきている。ランドセルの重量化に伴い、児童の成長に影響を与えるとのことで、家庭学習で使用しない副教材の持ち帰りに配慮するよう通達文が出された。この件については、通達文が出ると思っていたので驚いている。ランドセルを重くしたのは学習指導要領や、授業時数を増やしたせいではないかと、疑問を感じている。生徒指導上の問題があり、中学校では「暑い。夏休みを延ばして」、「重いから、教科書を置いて帰っていいでしょう」という生徒が出てくる。来年以降は、このような指導が増えるであろうと危惧している。

8. 議事の概要

審議事項	第27号 平成30年度大川市教育委員会感謝状贈呈候補者について
委員	宮前小学校でのMSC事業は素晴らしいと感じたが、他の小学校での活動はないのか。
事務局	学校によって組織的な違いがある。事前に各学校に調査を出しており、推薦が挙がってきている。6年以上活動されている方もいらっしゃるかもしれないが、学校が把握していないことも考えられる。宮前小学校については、10年ほど前から組織的に募集し、活動されている方を把握している。宮前小学校のように「しっかり

	把握してください」という投げかけにもなればと思っている。実際、他の学校から推薦は挙がってきていない。
教育長	あくまでも学校からの推薦ということである。委員の中にも交通指導をしていた方がいらっしゃるが、活動歴はどれくらいか。
委員	現在で9年目となる。
事務局	委員については事前の調査では挙がっていたが、正式には推薦がなかったため今回の表彰には至らなかった。
<b>《採決》 全員挙手により原案のとおり承認</b>	
<b>報告事項</b>	<b>(1) 臨時職員等の任用について</b>
委員	障がい児の学習指導支援員について、特別な教育を受けた者が配置されるか。
事務局	免許の必要は無いが、障がいについて一定の理解がある者を配置している。中には保育士や保健師、教員免許を所持する者もいる。
教育長	学童保育支援員と同じ考え方である。
<b>報告事項</b>	<b>(2) 平成30年度福岡県学力調査結果について</b>
委員	「身構え・物構え・気構え」で、「気構え」は「やる気」であると。これはなかなか難しいが、具体的にどのように指導されるか。
事務局	一つ前の学習指導要領では「楽しい学習」がメインであったが、「楽しさ」だけでは「遊び」になりかねない。子どもがしたいことだけやれば、当然楽しい。しかし、学習もないと能力がつかない。その中に本当の学習で「伸びる楽しさ」「できる楽しさ」「わかる楽しさ」を感じさせることで、「また、やってみよう」という分かる授業を展開していく。最初の「おもしろそうだ」というところから始め、一時間の授業ごとに自分のできることを少しずつ伸ばそうということである。